



## 雪国の里山特有の生物多様性の保全

特定非営利活動法人 越の里山倶楽部



人と里山との良き関係を取り戻すため、里山ガイドや自然体験型の環境教育活動を国営越後丘陵公園里山フィールドミュージアムなどで開催。「雪国の里山」の自然を守り育て、次代を担う子どもたちに四季折々の里山の魅力と大切さを伝えていきます。これからも、地域と連携協力しながら雪国の里山がもつ生物多様性の保全活動を継続し、次々にバトンをつなげていきたいです。



## クリーニングで持続可能な社会づくり

ワタナベグループ ホームクリーニング事業部



クリーニング済みのハンガーを無料で回収・洗浄・再利用(リサイクル)することでプラスチック削減に取り組んでいます。PRチラシを見かけたお客様からは「こんなこともしているんだね」と関心を寄せていただいています。クリーニングを通して持続可能な社会づくりの一端を担い、地域の人や子どもたちが笑顔になれる未来をつくりたい。この活動を入口に、全店舗、全営業所、全工場が環境に配慮した会社を目指していきます。

## 市民活動・虎の巻

研究テーマ // ボランティアの受け入れ先を探そう!

余白の時間を誰かのために使いたい。そんなときの一步として、ボランティア活動を思い浮かべる方も多はず。しかし、ボランティア活動と一口に言ってもその種類は様々です。今回は、活動の頻度別にどのような受け入れ先があるのか見ていきましょう。

### 単発で活動するもの

- 主なジャンル イベント
- 主な例 事前準備、会場の設営、当日の運営補助
- 問い合わせ先 各地域のコミュニティセンター、ボランティアセンター、協働センター

スポーツやお祭りなどの準備や運営をお手伝いします。初めてボランティア活動をする方や、できるときだけ活動したい方におすすめです。

### 定期的に活動のあるもの

- 主なジャンル 福祉、環境保全
- 主な例 食事サービス、高齢者や子どもの見守り、植物の手入れ、清掃活動など
- 問い合わせ先 各地域のコミュニティセンター、ボランティアセンター

特定の団体や活動に定期的に参加します。比較的時間に余裕のある方や、一つの活動を長く続けていきたい方におすすめです。

### 非常時に活動のあるもの

- 主なジャンル 災害
- 主な例 家屋の片付け、炊き出し、被災者の心のケア
- 問い合わせ先 チーム中越

災害発生時、被災地の災害ボランティアセンターの情報を確認し、活動に参加します。平時の取り組みは、チーム中越のホームページをご覧ください。

### MEMO

8月号では、ボランティア保険の加入方法をご紹介します。ボランティアを受け入れたい方、ボランティア活動をしたい方、必読です!

各地域のコミュニティセンター

ボランティアセンター

チーム中越

### センターからのお知らせ

## もっと気軽に市民活動相談! オンライン相談受付中!

協働センターでは、オンラインでの市民活動相談を承っています。新型コロナウイルス感染症の影響で対面での相談に不安がある方、ご自宅が遠く協働センターまで来るのが大変な方におすすめです!

ZoomやGoogle Meet、Facebook Messengerなどを利用したビデオ通話で、普段と変わらず相談対応いたします。ぜひご利用ください。



詳しくはこちら



## 多様な主体による森づくり



森を守り育てる人

森づくりを応援する人

思いのあるひと同士をつなぐ人

さまざまな立場で森に関わる

人びとの活動をご紹介

特集

猿倉緑の森の会 株式会社 INPEX

NAGAOKA PLAYERS 山崎 超さん

長岡みんなのSDGs

特定非営利活動法人 越の里山倶楽部  
ワタナベグループ ホームクリーニング事業部

市民活動・虎の巻

ボランティアの受け入れ先を探そう!

# 「多様な主体による森づくり」 里山に親しみ、守り続けるために

今、私たちのまちが抱えている様々な課題に、それぞれの特性を活かして向き合い続けている団体をご紹介します。今月のテーマは、「多様な主体による森づくり」。私たちは日ごろ、森から守られ、多くの恵みを受けています。

**長岡**市の森林面積はおよそ44,000ヘクタール(2018年現在\*)。総面積の約半分を占めています。中でも私たちに身近な里山と呼ばれる地域は、高度成長期に産業構造や生活様式が変化することで、燃料としての樹木利用の衰退、周辺地域の高齢・過疎化、外材輸入拡大に伴う資源利用の縮小が進み、それらが自然環境の荒廃や地域特有の生物の生息域の消滅、生物種の減少につながりました。1980~90年代になると自然保護の考えが広がり、森林整備のボランティア活動や企業による森づくりの推進が全国的に広まりました。今月号では、長岡市内における森づくり

について、最近の取り組みを見てみましょう。  
蓬平温泉からさらに山道と奥へと進んでいくと現れる、「天空のブナ林」と呼ばれる猿倉岳山頂付近は、知る人ぞ知る観光スポット。この林とその周囲一帯を整備しているのが市民活動団体「猿倉緑の森の会」です。かつては燃料の供給源として近隣住民に身近な山でしたが、時代の変化とともに人々の足は遠のいていきました。中越地震で被災した山道を市が復旧したのをきっかけに、子ども時代からこの山に馴染み親しんでいたという有志らが整備に加わり、それが会の結成につながりました。「足元のおぼつかない近所のお年寄りも、ここ

に連れてくると不思議と背筋がシャンとする。体が覚えてるんだね」と代表の中村さんは言います。こうして猿倉岳は生活に必要な存在から心の拠り所へと変わっていきました。また会では地元の太田小中学校の子どもたちに、毎年ブナ林での軽作業を体験してもらい、里山の知恵を教える取り組みを続けています。会が主催するトレッキングや間伐体験のイベント時には同校のOBも参加するなど、その後も交流が続いているとか。こうした誰もが参加しやすい取り組みは、ブナ林を次の世代まで引き継ぐことにもつながっています。

森林保全の担い手として企業にも期待が集まっています。新潟県は「企業の森づくり」事業を2008年より開始、長岡市内では現在3つの取り組みが展開されています。石油開発の大手企業である株式会社INPEXは、国内事業の中心である新潟県内で、環境保全や地域貢献につながる取り組みができないか考え、2010年、新潟県の紹介で「キツネ平どんぐりの森」(長岡市不動沢地区)の森林整備活動に参画し始めました。約0.7ヘクタールの森林整備を、同社社員や地域の方々、新潟県職員とともに取り組んでいます。作業は年2回開催され、終了後には参加者全員の懇親会も開かれ、社員と住民が親睦を深めます。今では地域の恒例行事として認知され、総勢100名が参加するまでに なりました。

森づくりは百年の計と言われています。森づくりを持続可能にするためには、実際に森を整備する団体や地域の人、その活動を後押しする企業、森づくりに興味のある人と手助けを必要とする人をマッチングする組織など、様々な主体が関わるのが大切ですね。



①太田小中学校との恒例行事。山頂までトレッキングした後、森林インストラクターによるオリエンテーションを受け、間伐などの作業を体験する。  
②整備活動は月1回程度。間伐する範囲は1年に3ヘクタールずつ、毎年区画を決め計画的に進めている。  
③ブナ林に囲まれた、程よい傾斜のある広場では、毎年コンサート等のイベントも開かれる。(昨年はコロナ禍のため中止)

## メンバー & 参加者の声



「猿倉緑の森の会」  
メンバーの原さん

他のメンバーに声をかけられて会に加わりました。子どもの頃から山は身近な存在でした。山の作業は好きですし、身体を動かすと気分もいいです。



「猿倉緑の森の会」  
参加者の井口さん

前回初めて参加して、山歩きや樹木の間伐などが気に入りました。普段体験できないことばかりで、今日を迎えるのがとても楽しみでした。



「株式会社INPEX」  
社員の井上さん

地域の方々と交流できたり、過去に植えた樹木の成長を感じられるのが楽しいです。また自然保護に関われることに達成感を感じています。

## ウワサのあの人にインタビュー! NAGAOKA PLAYERS

自分とみんなの「らしさ」を活かす  
“坊ダールレス”な団体づくり



まさる  
山崎超さん(27歳)  
僧侶/ともぶらすmishima

1994年長岡市三島町生まれ。フルマラソン2時間44分の記録を持つ、自称「長岡で1番スタミナのある僧侶」。

三島の若者たちが地域を盛り上げようと、三島らしさを大切にしているイベントを展開している「ともぶらすmishima」。代表を務めているのは、団体が最年少の山崎超さんです。「弱点は代表らしいことが言えないところ」と本人は言いますが、メンバーとの間に垣根を作らず、気さくに話せる代表として活躍しています。

活動を始めたきっかけは、ともぶらすのメンバーとの出会いでした。23歳のとき、大学生活を送っていた京都から地元の三島にUターン。当時は「地元には何の楽しみもない」と思っていた、正直なところ帰りたくはなかったそう。しかし「思っていたよりも若い人がいて、昔からあるイベントもたくさん行われていました」。自身も地域に関わりたと思い、参加した三島地域若者会議で、現在のともぶらすのメンバーと意気投合し、お寺でマルシェを開催。面白さとやりがいを感じ、ともぶらすを立ち上げました。

結成当初、その場の“ノリ”で代表を引き受けましたが、最年少で代表を務めるのは苦労も多いそう。メンバーの意見を取捨選択し方向性を決めるのは特に難しいと言います。「みんなの意見を一人で抱えてしまっただけで辛かったとき、友人から『みんなが意見を言いやすいのが良さなんじゃない?』と言われ、自分らしさを活かしていこうと思うようになりました」。以来、メンバーが発言しやすい環境づくりや、できる限りみんなの意見が反映されるように方向性を決めていくことを心がけています。それぞれのアイデアを尊重する団体運営は、味噌汁(風)プールや仏具磨きワークショップなどのユニークな企画の実現につながっています。

「代表を任されたことで、人と一緒に活動するしんどさだけではなく、楽しさも経験できた」と笑顔で話す山崎さん。自分とみんなの「らしさ」を武器に、若き代表の挑戦は続きます。



「キツネ平どんぐりの森」では、6月にはフィールド内の除草や樹木の剪定、10月にはイチヨウやモミジの植樹などを行います。

※新潟県長岡市 平成30年3月23日公表「長岡市森林整備計画書」より



### 猿倉緑の森の会

2008年設立。猿倉岳山頂周辺のブナ林を再生し訪れる人たちの憩いの森となるよう整備している。トレッキングや間伐体験なども開催。



### 株式会社 INPEX

国内外において石油・天然ガスに関するプロジェクトを推進。国内における事業の中心地である新潟県内で森林整備活動に取り組む。

誌面で紹介しきれなかった、  
森づくりに取り組む団体や、  
森と親しめる場所を掲載中!



コライト特集ページは  
こちら

